

〈保健体育〉

主体的に取り組む武道（空手道）学習の工夫

— 協同的な学びによる学習を通して（第2学年） —

西原町立西原東中学校教諭 松 田 健

I テーマ設定の理由

21世紀は知識基盤社会の時代といわれ、激しい変化に対応する能力が求められ、これまで誰も経験したことのない、複雑で激しく変化する社会を生きるために、生徒たちの「人間力」（相手の心を揺り動かす力）を豊かに育てることが必要である。その為には、「自分はこう考える」という意思を持ち、主体的に取り組むことが求められている。さらに知識、技能の習得だけでなく学習状況や学習課題に応じながら相手とのコミュニケーションを図り、協同的に問題解決にあたる資質や能力が重要である。

また、中学校学習指導要領解説「保健体育編」の目標において「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう基礎的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決し、主体的に学習に取り組む態度を養う」とされ、主体的に学習に取り組む態度の育成も求められている。

平成24年度には武道・ダンスが完全実施となり、特に沖縄県においては武道の単元で空手道を実施する学校が80%を超えている状況がある。沖縄県が「空手発祥の地」という地域性もあり、授業に抵抗なく入れるのも一つの特徴といえる。さらに、体育実技の教科書にも空手の「形」が掲載されていることも授業を行う上では重要な要素となっている。空手道は基本運動で「体」を鍛え、「形」でいろいろなイメージを練り、主体的に活動し協同的に取り組める単元の一つで空手道の授業はとても重要な役割を果たしている。

また、授業において「自らの身を護る」ということも意識させ運動実技の中で「自分に眼を向ける」良い機会となり、自分の身体の動かし方をよりよく知る機会になると考える。

現任校では、男女とも3分の2以上の生徒が初めて武道の授業を体験することが多く、武道（空手道）について、知識や技能の習得の仕方を知らないという現状があった。また、「痛い」「怖い」「殴り合う」というイメージが強く、積極的に授業に参加できていない場面も見られた。そのため何をどのように学び、技術の向上を図ればよいのかわからない生徒が多かった。初めは武道の特徴的な基礎、基本の動作に重点を置きながら一斉授業を進めていき、技能の向上を図った。さらにワークシートの活用や学習カードの活用を通して技能の習得や確認を行い、個人目標を設定させ授業を実施した。その結果、集中して取り組む生徒の活動が見えた。

しかし、ペア活動やグループ活動等の協同的な学びが少ないため、習得した技能の確かめ合いや技能の実施、生徒同士でアドバイスをめくったり、意見を出し合ったりしてお互いを高め合う主体的な活動があまり見られなかった。さらに、生徒が教師やDVDの映像を視聴しながら「形を覚える」という、真似る学習活動が多く、試行錯誤しながら技能を高める学習に差が見られた。すでにつくられた動きを覚える活動が主になるため、自ら動きを確認し、生徒同士でどのようにしたら動きがスムーズになるのかといった発展的な活動が滞っており工夫、改善する必要がある。そして、この授業形態だと指示待ちの生徒が多く、主体的に活動できていないことがわかった。

そのため、生徒同士の協同的な学びによる学習を通して他者との関わり方や思考、判断する場面を積極的に取り入れ、班の仲間と一緒に知識や技能を活用し、運動（形）の魅力を目指す課題を設定し、粘り強く意欲的に取り組み、活用につなげる学習過程を工夫する必要がある。

そこで本研究では、武道学習の中でペア活動やグループ活動等、協同的な学びを通して形における技能の習得、活用を行うことにより、生徒が授業へ積極的に参加し、体育学習へ主体的に取り組むことに繋がると考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

武道（空手道）の場において、協同的な学びの学習を通して技能の習得、形における技能の活用を行い授業へ積極的に参加することで生徒が主体的に取り組む態度が育まれるであろう。

II 研究内容

1 主体的に学習に取り組むとは

学校教育法第30条2項には、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う」とされ、「中学校学習指導要領総則」の指導においては「生徒の興味・関心を生かした基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習や体験的な学習を重視する」とされている。

さらに（北俊夫2013）によると「主体的に学ぶ態度は、生涯にわたって学び続け、自己を高めていくためにも必要な資質で生涯学習の基礎を培う観点からも重視されている」と述べている。

空手における主体的な学びとは興味、関心、意欲など人間の情意的側面を高めることで培われていく。空手の形を習得する段階で積極的に取り組み物事を考えたり、技を理解したり、相手をイメージし技を出したりしながら、習得していくことで形をしっかりと身につけ、技能の不十分なところはお互いでアドバイスを送りながら修正をしていき、実践していくことが大切である。

「なぜ空手を習うのか」「なぜ空手が必要か」という疑問に、身体を護る術を学びながら他者を尊重し生涯にわたって運動に親しみ実社会で生かすことが必要であるということを理解させ生徒に興味、関心を持って取り組ませることが大切である。

また、「形」の習得においてもただ単に順序を覚える学習ではなく易いから難への習得レベルに応じて生徒が取り組み、その学習過程においてペア活動やグループ活動の中から技能の習得のための言語活動を充実させ「自分への問い」（どうしたらうまくいくのか）を持ち、試行錯誤を繰り返すことで生徒の意欲の向上も高められる。

これらのことから本研究では、武道（空手道）の場において、協同的な学びの学習を通して技能の習得、形における技能の活用を行い、粘り強く学習することで生徒が主体的に取り組む態度が育まれることと捉える。

2 協同的な学びとは

ディヴィッド・W・ジョンソン（1998）によると協同的な学びとは、「小集団を活用した教育方法であり、生徒達が学習課題に対して一緒に取り組むことで互いの学習を最大限に高めようとする学習方法である」としている。協同学習には5つの基本的構成要素（図1）があり、協同学習の課題解決への学習過程を通して個人と仲間の両方が成功に貢献していることを認識し、生徒は互いに討議を行うことの必要性を確認し、援助、アドバイスを行うことの大切さや社会的技能の修得の楽しさを味わうことができる。さらに、協同学習の実践は、「社会的技能を身につけていくための良い機会」とであると提唱している。

協同学習の基本的構成要素	
1	相互協力関係
2	対面的・積極的相互作用
3	個人の責任
4	小集団での対人技能
5	グループの改善

図1 5つの基本的構成要素
（ジョンソン 1998）

(1) 相互協力関係

分担された役割に使命感をもつような場合に実現され、目標を達成するために自分の努力と仲間の努力が必要であり、仲間が課題解決に向けて一緒に学び合うことで学習効果があげられる。

(2) 対面的・積極的相互作用

グループの中で自分の意見を伝え、他者の意見を聞いたり、互いの意見を吟味したり、仲間同士で課題解決に向けた様々な説明活動をする中で起こる活動である。

(3) 個人の責任

自分の役割を意識させること、自分が役割を遂行しなければグループの課題が解決に向かわないということを認識させる必要がある。自分や他者の努力がグループの学習にどれくらい貢献しているのかを評価し、それをフィードバックしながら学習を進めていく活動である。

(4) 小集団での対人技能

集団での対人技能を身につけると質の高い協力である「互いを知り信頼し合うこと」「正確で明確なコミュニケーションをすること」「互いに受容し支え合うこと」などができるようになり、効果的な協同学習を展開することができる。

(5) グループの改善

自分たちはどの程度うまく目標を達成しているのかということや、効果的に問題解決に取り組む協力関係をつくられているのか、などを振り返る必要がある。このように相互に評価しあうことで仲間同士の積極的な行動を引き出すことができる活動である。

そこで、本研究ではジョンソンの定義を参考に、「相互協力関係」と「個人の責任」の2つの要素に重点を置き、他者との関わり方や粘り強く学習する場面を取り入れ、班の仲間と一緒に知識や技

能を活用し、運動（形）の魅力を追求する課題を設定し、活用につなげる学習過程を工夫する必要があると考える。

3 一斉指導について

久保齋（2005）は一斉指導について、「一斉指導とは、一人の指導者のもとに多数の生徒が同じ課題に取り組み、その結果を交流し、互いに深め合っていく学習形態である。」と定義している。そのとらえ方に基づいて本研究では空手道の授業で、武道特有の手の動きや足の運びがあり、技能習得が難しく基本的な突きや受けを最初に学ぶ必要がある。また、ほとんどの生徒が初めて行う技能動作のため同じ課題に取り組みながら基本的な技能の習得を目指し、粘り強く技能の活用を行うことが大切な要素となる。そのため空手道の授業では一斉指導が必要である。

4 活用を意識した授業づくり

授業の学習活動は、「習得」「活用」「探究」の3つの柱を中心に構成（図2）されており、活用を意識した授業づくりには「既習事項がどの程度身についているか」「思考を活性化させる」「何のためにどのような方向付けが必要か」「習得した技能をどのように活用し技能を高めるのか」と考えさせながら学ばせ、活動を進めることが重要なこととなる。

また、「基礎的な知識や技能を習得してその活用を図る」という習得、活用が一方向からの動きではなく生徒が運動の楽しさや喜びを味わいながら学習を進めていくことを前提として「習得」と「活用」を踏まえた授業づくりが求められる。

「習得」と「活用」の2つ場が常に相互にやりとりし合い補い合って学習を進め、さらに、探究とも連動しながら運動の特性に応じた行い方や一般原則等の知識と基本的な技能の往環を図り、それらを深めるため探究の充実が重要である。

そこで、本研究では運動についての自他の課題を発見し合理的な解決に向けて思考、判断し目的に応じて他者に伝える力を養い、学習活動の中に実際に体を動かすことで「体感」する自分のからだの状態に対応しながら、習得したことを修正し、足りなかったことを体験的に自覚してそれを補おうとしたりするなどの修正作用を授業で検証する。そのため、日頃の学習指導においては「目標の設定→計画→実行→振り返り」という一連の活動を繰り返しながら学習を工夫、実践し、意識した授業づくりを行うことが重要であると考え。

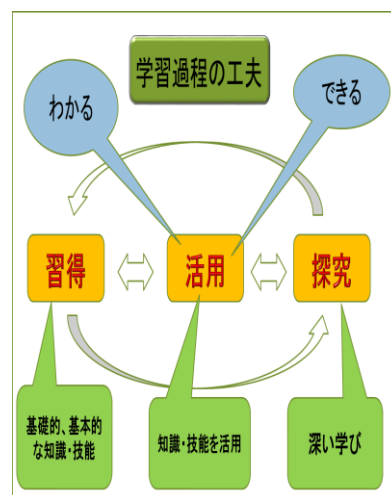


図2 習得・活用・探究の関係

5 非認知スキルとは

池田新介（2016）によると非認知スキルとは、各教科の「達成度が客観的テストによって評価できるスキルのことを認知スキルといい、客観的テストによっては把握しづらいそれ以外のスキルのことを非認知スキル」と総称している。また、人々の行動のパフォーマンスを向上させる上で、この非認知スキルを高めることが重要であると指摘している。本研究では、空手道の授業において生徒が技の動きを確認しながら技能を高める学習形態や行動観察、学習カード等の非認知スキルが主となる。

そこで、ペア活動やグループ活動による協同的な学びの学習を通して技能の習得、形における技能の活用を通して授業に積極的に参加することで非認知スキルが高まると考える。

6 スポーツ・オノマトペの活用

藤野・吉川（2001）によるとオノマトペとは、フランス語に語源を持つ擬音語・擬態語を意味する言葉で擬音語は実際の音を真似て言葉とした語であり、擬態語は視覚、触覚など聴覚以外の感覚印象を言葉に表した語である。すなわち、両者は五感による感覚印象を言葉で表す言語活動である。スポーツ領域で活用されている擬音語・擬態語をスポーツ・オノマトペという。

スポーツ・オノマトペを授業に活用することで、運動の「コツ」を表現する際の言葉として有効であり、興味を持って運動に取り組める手立ての一つであると考え。

7 空手道の特性

武道では激しい攻防の後、自己の心理的な興奮が収まっていない時においてもその興奮を抑えて正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められている。礼を重んじ、その形式に従うことは自己を制御するとともに相手を尊重する態度を形に表すことであり、その自己制御が人間形成にとって重要な要素であると考えられている。

(1) 身体的な発育の効果

空手道の運動・動作には、他の運動にない特徴が見られる。それは利き腕、利き足のみを発達させるのではなく、左右を均等に使用する動きが多いため、身体全体をバランスよく発達させることができる。また、調和のとれた身体的発育に効果があり、調整力（機敏性、平衡性、柔軟性）の向上にも繋がることできる。

(2) 精神的な発達への効果

同年齢、異年齢の集団の中では、社会的人間関係づくりが求められ、対人関係や社会に適応できる能力が養われていく。このような環境のなかで、協調性、創造性、想像力が養われると同時に生徒同士の友情、信頼感が育まれ自主性、自発性の向上につながると考える。

(3) 知の能力開発

形を習得する段階において、物事を考える力、イメージ力を膨らませ想像力や創造力を自ら考え、発展させることで、新しいことを生み出す知識が広がる。

形における技能の習得、活用を行いながら「力の集中と脱力」「呼吸と動作の一致」「移動の安定感」「自己表現」「礼節」等、空手道の特性に触れながら進めていく。

特に本研究では、ペア活動やグループ活動を通してコミュニケーション能力を高め、自分の体の動きを再確認し、自己表現の方法として表現し、主体的に取り組む態度が育まれるであろうと考える。

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 「F 武道」 空手道

2 単元目標

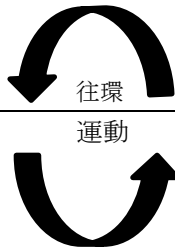
- (1) 種目の特性に触れ、場の安全に留意し班の仲間と協力しながら公正、公平な態度で楽しむことができる。（関心・意欲・態度）
- (2) 課題に応じた運動の取り組み方を工夫し、課題解決に向け取り組む。（思考・判断）
- (3) 技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。（技能）
- (4) 武道の伝統的な考え方を理解し、技の名称や試合の行い方が説明できる。（知識・理解）

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
① 空手道の授業に積極的に取り組み進んで課題や問題解決に取り組もうとしている。	① 自己の体力に応じた技や基本動作を課題として積極的に取り組んでいる。	① 自他の構えや、姿勢を適切に捉え直すことができる。	① 空手道の歴史や、伝統的な考え方について、教材や学習を通して、理解を深めることができる。
② 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。	② 基本の技を習得するために練習の方法を工夫し取り組んでいる。	② 空手道の基礎基本を下に、正確に突き、受けが行うことができる。	② 立ち方、受け、移動基本などの技の名称について説明することができる。
③ 空手道の基本的動作（突き、受け）について主体的に取り組もうとしている。			

4 指導計画

時	ねらい	学習活動	指導上の留意点	学習に即した評価
1	学習のねらいを知る。 空手道の歴史を理解する。 空手道に必要な基本動作を身につける。	【オリエンテーション】 ・アンケートの実施。 ・学習の全体計画について理解する。 ・空手の歴史について説明する。 ・学習資料の活用の方法を知る。 【習得学習】 ・基本的な立ち方を覚える。 ・基本的な突き、受けを行う。	・全体計画について理解させる。 ・空手道の特殊性について理解させる。 ・基本動作を身につけることができるよう支援する。	【知識・理解】① 【関心・意欲・態度】②(指) 【技能】②(指) ↓ ↓

2	基本的技能を高める。 (移動基本)	【活用学習】 ・前時に学習した突き、受けを移動しながら行う。 ・運足、転身の仕方を覚える。 ・学習を振り返る(学習カードの利用)	・上肢と下肢が一体となるよう擬態語を取り入れ動きを把握させる。 ・各動作の動きが基本通りの軌道にできているか支援する。	↓ 【技能】②(評) 【関心・意欲・態度】②(評) 【関心・意欲・態度】③(指) 【思考・判断】① ↓
3	見本者2人の普及形Iを鑑賞し、違いを話し合い、テーマを設定し練習しよう。	・同じ形を演武する2人の動きの違いについて話し合わせる。 ・形について、それぞれのイメージを話し合わせる。 ・突きや受け、構えについて行わせる。(学習カードの利用)	・形の特徴と技能の違いを考えさせ、自分達の考えたテーマを設定させる。 ・形の動作の意味を理解させ正しく行わせる。	↓ 【関心・意欲・態度】③(評) 【関心・意欲・態度】①(指) ↓ 【技能】①(指) ↓
4	基本技を意識しながら技を正確に行う。 形練習に意欲的に取り組む。	・普及形Iの前半部分の視点を考えよう。 【習得・活用学習】 ・号令をかけて正しい姿勢で動作を行う。 ・学習を振り返る(学習カードの利用)	・仲間と協力し、考え、教え合いながら課題の解決に向けた方法を見つけさせる。(視点を考える。)	↓ 【技能】①(評) ↓ 【関心・意欲・態度】①(評) 【思考・判断】② 【技能】①(指) ↓
5			・仲間と協力し、考え、教え合いながら課題の解決に向けた方法を見つけさせる。(テーマに沿った練習方法)	↓ 【技能】①(評) ↓ 【思考・判断】② 【知識・理解】②
6		【探求学習】 ・3人～5人のグループ分けを行い、形と一緒に合わせる。 ・仲間と教え合いながら、課題解決に取り組ませる。(同調、目付け、バランス) ・学習を振り返る(学習カードの利用)	・仲間のよい動きや技能を自分の動きに取り入れるよう支援する。	↓ 【技能】①(評) ↓ 【思考・判断】② 【知識・理解】②
7	・同調、バランス、集中、呼吸に注意して行ってみよう。			

5 本時の指導（6時間目／7時間）

(1) ねらい

テーマに沿った視点を話し合い活動しながら、班のテーマにあった形を作り上げる。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習に即した評価
10分	1 集合、整列→礼 2 出欠確認、健康観察	・整然と整列し座礼をさせる。 	

	3 授業の流れの説明 (今日のねらいの確認) 4 学習カード記入 5 準備運動	ねらい テーマに沿った視点を話し合い活動しながら、班のテーマにあった形を作り上げる。 ・学習のねらいや安全に関する注意事項を確認する。(靴をしっかりと並べる) ・個人のめあてをしっかりと立てさせる。 	
30分	1 班ごとに前時までに学習した普及形Ⅰを練習させる。 2 話し合いを通して、班の視点を確認させる。 3 練習の形態を工夫させる。 ①全員正面を向いて ②全員向かい合って ③1人がアドバイスをを行い残りが演武する。 	・各挙動を確認させ、正しい姿勢や目付けなど話し合わせる。 ・自分たちの視点にあった練習方法を考えさせ、テーマに近づけさせる。 ・仲間のよい動きや技能を自分の動きに取り入れるよう支援する。 自分たちが考えたテーマに沿って練習。	自他の構えや、姿勢を適切に捉え直すことができる。 【技能】① 基本の技を習得するために練習の方法を工夫し取り組んでいる。 【思考・判断】②
10分	1 班ノートの記入 2 学習カードの記入 3 次時の予告	・本時の自己評価と班の評価を書かせる。 ・正しい礼法で挨拶をさせる。	

7 仮説の検証

研究仮説に基づき、武道（空手道）の場において、協同的な学びの学習を通して技能の習得、形における技能の活用を行い授業へ積極的に参加することで生徒が主体的に取り組めたかを検証授業において学習カード、班カード、挙動視点カード、自己評価、行動観察から分析、考察を行う。

(1) 主体的に学習に取り組む工夫

武道への意識付けとしてオリエンテーションの場において「空手の技能」や「空手のイメージ」を持つことができた生徒が少なく、興味、関心を持たせるため世界大会のビデオ（女子選手の形）を鑑賞した。感想を述べさせると、「機敏である」「技が早い」「シュッという音が鳴る」などの意見があり空手の技に興味を持つ生徒が増えた。

また、第1時の新聞紙を活用しての突きの授業（写真1）では、突く場所に集中することや突き出す手をどのようにすればよいかなど意識を持つことができるようになった。新聞という「道具」を活用したことで話すきっかけ作りになりグループ活動の中で言語活動が充実した。

振り返りのアンケートでは、学習に意欲的に取り組んだという回答が100パーセントあった（図3）。生徒も難しいと思っていた空手の授業が「楽しくできた」や「空手の授業は安全だということがあった」などの意見もあった。



写真1 新聞を活用しての様子

第2時では、武道（空手道）特有の足の運び（運足、転身）があり技能習得が難しく基本的な突きや受けを最初に学ぶ必要がある。ほとんどの生徒が初めて習う技能動作のため一斉授業が必要であった。

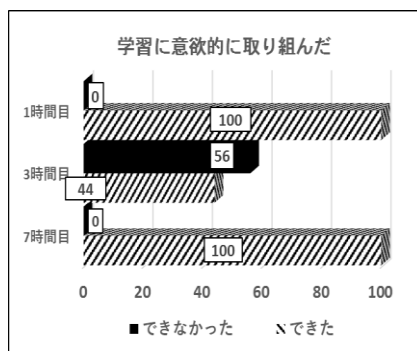
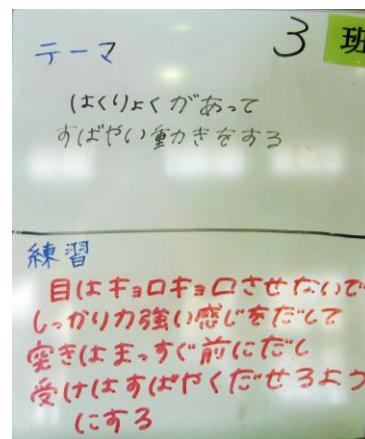


図3 アンケート結果 (N=32)



国人のめあて (課題)	どのような行動(動き)を 意識し、取りましたか。	自己 評価	学習のまとめ (課題がどうなったか)
突きと受けを やるように 慣れる。	手をまわしてける動き をはきりた。	A B C	突きはけうさ げに受けれたが かった。
突きと受けを キレはれ物には かわるがする。	足を滑かせないように 意識した。	A B C	通いはできたけど 肩は留と建点の 気をつけよう。
蹴蹴をして、カル アでしか手取 限ります。	カルアで息を合わせ るために口はばい い話し合えた。	A B C	テーマを決めたの やぶくたにから 合ひ上手にでき ていたと思う。
班でしか話し 合いテーマを決 める。	テーマを決めるため に、話し合をする	A B C	全体的な話をし れどと思ふけれど 話し合えていた 思う。

	形における演武の見方
1	力強さ (しっかり突いているか) (拳は、正中線に向かっていているか)
2	スピード (機敏に動いているか) (突き、受けの早さは?)
3	立ち方 (身体まっすぐになっているか) (重心は、しっかりしているか)
4	目付け (目の位置は前を見ているか) (突、場所、受けの場所をしっかり見ているか)

の中から話し合いを活発化し技能の習得のための言語活動を充実させ「自分への問い」（どうしたらうまくいくのか）を持たせた。

第3時の授業の時とは違い、観る視点を明確化したことでこの動き（ポイント）に注意しながら観ていくのか、誰がどの部分を観ていくのか（視点の細分化）を図ることでグループ内での思考の共有ができた。

また、グループによる言語活動の充実も図られ、動き方を模倣しながら、お互いで動きを見せ合いアドバイスを行うグループもでてきた。

さらに、空手の特性でもある相手を尊重する態度を形に表すという意識も広がり信頼感が生まれた。視点を明確にしたことで有効な手立てとなり、生徒が自分たちで考え、細かな動きや力強い動きに気付き、グループ内で形における技能の活用を行い授業へ積極的に参加し主体的に取り組めたと考える（図7）。

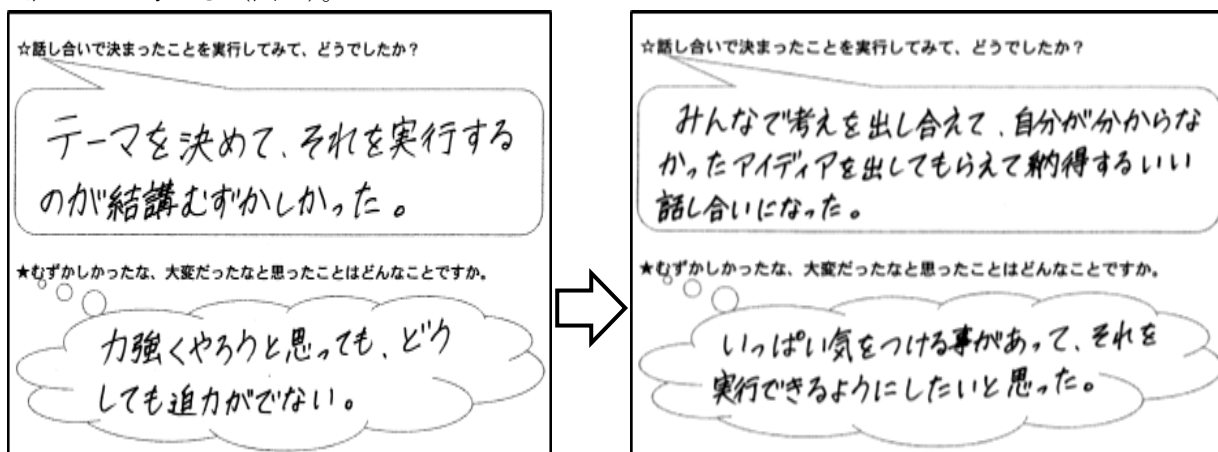


図7 話し合い活動の変容（抜粋）

③ 挙動視点カードの活用（形の順序の細分化画像）

見本となる生徒の一連の動作の静止画を載せた「挙動視点カード」を作成(図8)し、第5時から活用した。これまでの言葉だけの説明ではわかりにくかった細かな部分の手の位置や足の動きなどが写真を活用することで生徒に「視覚」として伝わりやすく、効率的に生徒同士で確認することができた。

自分たちのグループがどのようなところを見ていけばよいかをグループの中で決め「技能面」「スポーツ・オノマトペの活用」「何をしているところ」「気をつけるところ」の分担をしていきグループのみんなそれぞれが意見をいえるような工夫を考えた。それにより、話し合い活動が活発になり、生徒各々が細かな部分にもアドバイスを送ることができ粘り強く学習する姿が見られ、協同的な学びを通して主体的に取り組むことができたと考えた。



図8 挙動視点カード

(3) 活用を意識した授業づくりの工夫

① 学習過程の工夫の仕方

第5時、6時、7時は、往還的な運動が主となるため、これまでの学習活動の「習得」「活用」「探究」の3つの柱がどの程度身についているのか、知識、技能がどの程度活用されているのかを見てみると、学習カードや授業中のグループへのアドバイスなどには、「運足は早く」「すり足ができています」等、習得したことを書きながら修正し、足りなかったことをお互いで補おうとする修正作用の姿が見られた（図9）。

② 非認知スキルの活用による高まり

武道特有の動き（突き、受け、運足、転身、）があるため、単元全体の時間（7時間）の中の第1時、第2時、第6時において運動の技能を習得させるためのゲーム的要素を取り入

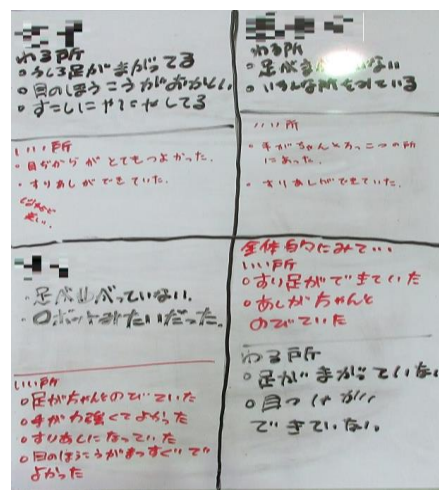


図9 グループでのアドバイス

れながら運動のおもしろさを味わわせ、グループ活動の充実を図り協同的な学びを高めた。

ゲーム的要素を取り入れることで、難しいと考えていた武道の単元に違和感なく入ることができ、武道の独特な動きや構えについても自然に口に出し、新しい知識（専門用語）もグループで共有することができた。

その結果、グループの話し合いの中で仲間話を傾聴することや、形の技能活用の場面などにも積極的に参加し、粘り強く学習に取り組むことができたと考えられる。

③ スポーツ・オノマトペ活用による有効性

「武道（空手道）」特有の足の運び方や向きを変える動きがあるため、初めて習う技能で最初は戸惑いも見られたが「なぜこのように動くのか」、「相手をイメージする」「運足で身を護る」など相手に対して突きや受けの仕方や意味を考え、理解させて行わせるとスムーズに活動することができた。お互いの話し合い活動を取り入れることで空手特有の（運足・転身）の技能の仕方を自分たちなりに考えスローモーションで確認したりする工夫も一部のグループに見られた。

さらに、移動しながら声を出していくなど積極的な場面も見られた。「スー」と出る、「クルッ」と回る、「パアッ」と進むなどスポーツ・オノマトペを使用することにより言葉で説明するよりも「早く理解できる」「動きがやりやすい」「説明がわかりやすい」といった意見も見られた（図 10）。

グループでの話し合い活動が活発なほど動きの確認が十分にでき、自分が気づかなかった部分が見え、技能の習得、活用の手立てとして有効であったと考えられる。

(4) 空手道の特性と自己表現の関連性

空手道とは、「礼節を大事にする」「相手を尊重する」「自分の身を護る動作」等を習得することで自分自身と向き合い「自分を大切にすること」「身を護る」ことに興味を持ち生涯にわたって実践しやすい特性を持っている。

グループ活動を通して、図 11 のように「空手は武器を使わない」「自分を守るための危険な場所がわかった」などの感想を書く生徒が増えた。また、護身に関しても興味をもち、運動する楽しさを味わう生徒が増え、検証前には技能面である基本動作や蹴りを習得したいと答えた生徒が多かったが、授業終了後のアンケートでは、護身について意識をする生徒が 6 パーセントから 47 パーセントに増えた（図 12）。

このことから、技能の習得、活用を行いながら「力の集中と脱力」「呼吸と動作の一致」「移動の安定感」の空手の特性を学ぶことは協同的な学習において有効であったと考えられる。

☆空手の授業を通して、あなたが一番大事だったことは何ですか？

空手は、武器を使わないものだけど、その自分を守るための相手の危険な場所とかがわかっていて、空手は自分の身を守るために必要だと分かった。

図 11 授業を終えての感想

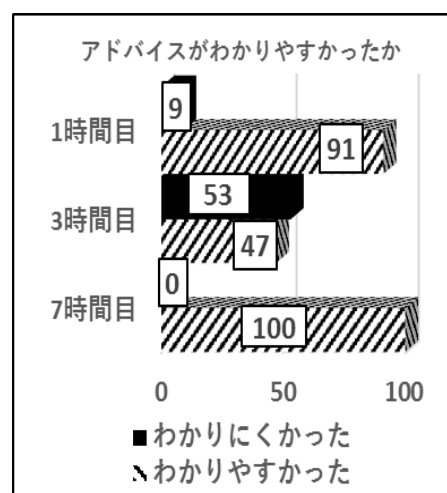


図 10 アンケート結果 (N=32)

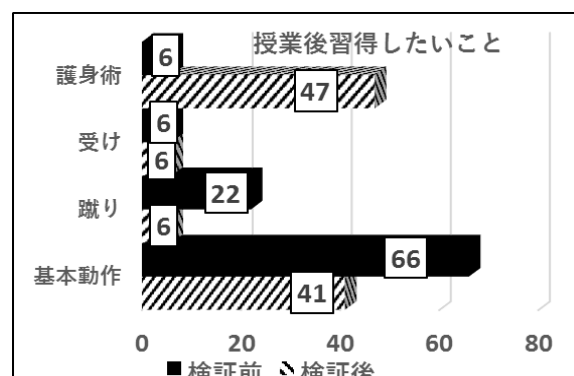


図 12 アンケート結果 (N=32)

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 武道（空手道）の場において、協同的な学びの学習を通して技能の習得、形における技能の活用を行い授業へ積極的に参加することで生徒が主体的に取り組む態度が育まれた。
- (2) 班活動やグループ活動の協同的な学びを取り入れることで、粘り強く学習し、体を動かすこと運動する楽しさを知ることができ主体的に取り組むことができた。
- (3) 技能の視点を明確化したことで話し合い活動がスムーズにいき、技能の活用が高まり、粘り強く学習し積極的に授業へ参加することができた。
- (4) 空手道の特性である「礼節を大事にする」「相手を尊重する」「自分の心と体を管理する」「自分の身を守る動作」等を習得することにより、自分自身と向き合わせることができた。

2 課題

- (1) 形を観る視点を明確（手の位置、足の運び、姿勢）に伝え、ポイントとなる動きが深められるよう学びによる活動の更なる教材研究の工夫が必要である。
- (2) 運動への興味、関心の高まりが技能の習得・活用、さらにはグループ活動による言語活動の充実へと繋がることを多くの運動領域で実践検証する必要がある。

〈参考文献〉

- 鈴木直樹・梅澤秋久・宮本乙女 2016 『学び手の視点から創る』「中学校・高等学校の保健体育授業」〈体育編〉 大学教育出版
- 池田新介 2016 「非認知スキルが求められる背景」『体育科教育』2016年11月号
- 田村学 2016 「授業を磨く」東洋館
- 西岡加名恵 2016 『アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』「資質・能力を育てるパフォーマンス評価」明治図書
- 全日本空手道連盟 2015 「空手道指導の手引き」 日本武道館・全日本空手道連盟
- 藤野良孝 2015 『脳と体の動きが一変する秘密の』「かけ声」 青春出版社
- 堀裕嗣 2014 「一斉授業10の原理100の原則」学事出版
- 田中耕治・香川大学教育学部附属高松小学校 2013 「パフォーマンス評価で授業改革」 学事出版
- 小山正辰 2013 「空手道の教育力」 B A B ジャパン
- 神戸大学附属住吉中学校・神戸大学附属中等教育学校 2012 「生徒と創る協同学習」 明治図書
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2011『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料』「中学校保健体育」 教育出版
- 中学校学習指導要領解説「保健体育編」 平成20年9月
- 久保齋 2006 「一斉授業の復権」子ども未来社

〈参考URL〉

- 協同学習 https://www.nise.go.jp/kenshuka/josa/kankobutsu/pub_f/f-140/f-140_1.pdf#search
- 活用型学習 <http://www.sing.co.jp/cms/of/list/file/0Fvol17-T.pdf#search>
- 体育科教育における今後の武道指導に関する考察 <https://ir.u-gakugei.ac.jp/edu-rp/handle/123456789/9629>
- スポーツ・オノマトペ <http://kwww3.koshigaya.bunkyo.ac.jp/wiki/index.php>
- 次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi
- 体育・保健体育・健康・安全WGにおける検討事項（案）http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3
- スポーツ・オノマトペ <http://www.jssp.jp/conven/29th/mini-2.pdf>
- 問いをもち、主体的に学ぶ子どもを育てる授業づくり <http://www.keinet.com/yamashis>
- 教育の小径 <http://www.bunkei.co.jp/school/komichi/pdf/monthly201310.pdf>